

「確かな学力」を育てる学習活動の工夫 — 少人数学級に応じた算数科の授業づくり —

I 研究の内容

1 研究の具体的内容と方法

(1) 児童の実態の把握

- CRT・NRTの結果や「Q-U」などを活用しての実態把握。
- 「Q-U」の結果は、全校を一集団ととらえ、学校づくりに生かす。

(2) 理論研究

- 全体研究で、研究の基本方針の検討決定を行う。
- 「玉宮小学習の約束」や家庭学習のめやすなど、学習基盤の検討を行う。
- 講師を招いての理論研究を行う。

(3) 研究授業

- 授業研究・・・授業作りの工夫、及び一人一実践。

(4) 学習規律・習慣の確立

- 「玉宮学びの約束」など全校で学習の約束を確認し、意識して取り組む。
- 家庭学習・自主学習について学年の実態に応じた取組。

2 研究実践

(1) 実態調査の実施

hyper-QU 年2回実施 課題と手立ての確認

(2) 理論研究 「Q-Uについて」分析方法と活用の学習会

「算数科の授業づくりについて」学習会など

(3) 学習規律・習慣の確立

- 玉宮小学習の約束の作成
- 学習の約束チェックシートを使っての意識調査、取組
- 「話し方・聞き方」表現力を高める工夫について意識化

(4) 家庭学習の取り組み

- 玉宮小「家庭学習の手引き」及び、学年ごとの取組の目安・内容の提示

(5) 一人一実践

- ・ 7 / 10 第2学年 授業実践「100より大きい数を調べよう」
- ・ 9 / 11 第6学年 授業実践「速さの表し方を考えよう」
- ・ 10 / 9 第3学年 授業実践「かけ算のしかたを考えよう」
- ・ 11 / 14 第4学年 授業実践「広さを調べよう」
- ・ 12 / 13 たけのこ学級 授業実践「分数をくわしく調べよう」

(6) 研究授業

- ・ 10 / 23 第5年生 「比べ方を考えよう (1)」

II 成果と課題

1 成果

< 児童 >

- 日常の指導により、聞く姿勢や話し方など少しずつ意識できるようになってきている。

- どの学年も少人数ながら仲良く前向きに授業に参加し、教室が自分の居場所として確立されているように感じる。少人数という特徴を意識したきめ細かく個に応じた授業がある程度できているからだと思う。
- 集会活動などでの聞く姿はたいへん集中していてよい。またスピーチなどを通して自分の考えをはっきりと言えるようになってきている。
- 自分の学級だけでなく全校で取り組んでいるという意識を持たせることにより、意欲を継続させることができた。
- 算数科を窓口としての・研究・取組であったが、実践していくうちに、児童が使用する言葉に敏感になった。
- 自分の考えだけでなく、他の児童の考えについても関心を持てるようになってきた。

< 教師 >

- 県の学力把握調査や国の学力学習状況調査の結果を職員全員で考察する機会をもつことにより課題を共通理解でき、またそこから得た改善点を授業に生かす事ができた。
- 斉藤指導主事を招いての学習会（6月）や清水指導主事を招いての研究授業（10月）は、算数科における現在の課題を知ったり授業展開を見直したりすることができ、とても参考になった。特に、「少人数のよさ」を生かす事をテーマにしたことが、明日の授業に役立てようという意欲につながった。また、1時間の授業のためにみんなで何回も検討を重ねることは、よりよい授業を求める教師の気風を生むので、大切だと改めて感じた。
- 一人一実践をすることにより全教師が1度は話題の中心となって研究会が開かれ、そのことが様々な見方や考え方の交流になり意義深かった。今後は、研究会で出された意見や助言が、実践にどのように生かされたか、検証することも大切だ。
- 一人一実践で授業に取り組むことは、授業力の向上に繋がっていると思う。「学力向上」や「少人数の生かし方」の具体的手だてを共通認識して一人一実践に取り組むことも良いと思う。
- 教師が「確かな学力の育成」「少人数のよさを生かす学習」を意識し、授業を展開することは、子どもたちの学力向上のためであり、自分の授業力をつけることにもなり、よい研究となった。
- 一人一実践を行い、他学年の授業内容や実態を知るのみでなく、授業のねらいに迫る方法や工夫が新鮮であり、勉強になった。また、自分の授業の組み立てを改めて考えさせられたり、励みにもなったりして大変勉強になった。

2 課題

- 発達段階に応じた家庭学習のさせ方や学習規律について、もう少ししっかりとした枠を作る必要があるように思う。特に、家庭学習については、印刷物の配布だけでなく、保護者の理解を促す何らかの手だても考える必要があるかもしれない。
- 「少人数を生かす」ことをさらに研究していくことも良いと思う。
- 少人数学級ならではの課題や問題点も含め、それらを解決していけるように来年度も引き続き、研究を深めていくと良いと思う。

III 成果物

- 玉宮小家庭学習の手引き 及び各学年の取組
- 玉宮小学習の約束
- 「話し方・聞き方」表現力を高める工夫

(研究主任 田邊 珠紀)